

YUICHI HIRAKO | MADE-MAN

2026年4月29日(水)～6月28日(日)

オン・サンデーズ&ライトシード・ギャラリー



Wooden Wood 186, 2026, ©Yuichi Hirako

平子雄一 | メイド・マン
29 April - 28 June, 2026



<https://onsundays.shopselect.net>

YUICHI HIRAKO | MADE-MAN

MUSEUM SHOP
ON SUNDAYS
LightSeed Gallery

平子雄一 | メイド - マン

2026年4月29日(水)～6月28日(日)

オン・サンデーズ B1+中地下展示スペース

二つか三つ以上の異質なものが隣り合うと、何かを考えざるを得ない。— 平子雄一

この度、オン・サンデーズ&ライトシード・ギャラリーでは1982年生まれのアーティスト平子雄一の個展を開催します。平子雄一は、自然と人間の共存関係の中に浮上する疑問や曖昧さをテーマに、ペインティング、ドローイング、彫刻やレリーフ、時にはサウンドまでを用いた多様な表現によって圧倒的な作品世界を提示し国内外で注目を集めています。

その作品にしばしば現れる、人の身体に植物の頭部を持つ存在「植物頭のモチーフ」には、幼少時に岡山の豊かな自然の中で育った経験が原型として存在しています。また、高校卒業後に渡ったロンドンで、街路樹や公園など人の手で整備された植物を「自然」と呼ぶことに抱いた違和感をきっかけに、作品を通じて現代社会における自然と人間の境界線を追求してゆきます。平子の生み出す「植物と人間のハイブリッドな存在」は、ヒトでも植物でもない存在であるが故に、自然／人間の境界線を越境し、その間にさまざまな階調で立ち上がるいくつもの異なった風景に気づかせてくれます。

今回の展示では、作家本人がこれまでとは異なるアプローチを模索した新作を中心に構成され、平子雄一の描き出す新たな風景をご覧ください。



平子雄一・プロフィール

1982年 岡山生まれ、東京を拠点に活動。

2006年にイギリスのウィンブルドン・カレッジ・オブ・アートの絵画専攻を卒業。植物や自然と人間の共存について、また、その関係性の中で浮上する曖昧さや疑問をテーマに制作を行う。観葉植物や街路樹、公園に植えられた植物など、人によってコントロールされた植物を「自然」と定義することへの違和感をきっかけに、現代社会における自然と人間との境界線を、作品制作を通して追求している。ペインティングを中心に、ドローイングや彫刻、インスタレーション、サウンドパフォーマンスなど、表現手法は多岐にわたる。韓国、台湾、イギリス、アメリカなど、国外でも精力的に作品を発表している。



MADE-MAN 01, 2026, ©Yuichi Hirako

アーティスト・ステートメント

私達は長い歴史の中で、鑑賞用の植物に対し多くの品種「改良」を行ってきました。「改良」されたものは、より私たちが美しいと感じるものに変異させられ、おそらくこれからもこのサイクルは続いていくと思われませんが、もし仮に植物に優位性があり、私たちが「改良」されるとすると、私たちはどのような変化を求められるのでしょうか。

今回の展示では、意図的に、自身が慣れていない挑戦的な表現のものを選びました。美しさとは反復により構築されていくものでもであると仮定して、敢えて「改良」途中のもの、人工的ではあるが植物の優位性も感じられるようなものを表現しようと試みました。



Chloroplast 06



Chloroplast 04



Chloroplast 07

オン・サンデーズ &
ライトシード・ギャラリー
東京都渋谷区神宮前 3-7-6
Tel: 03-3470-1424
www.onsundays.shopselect.net